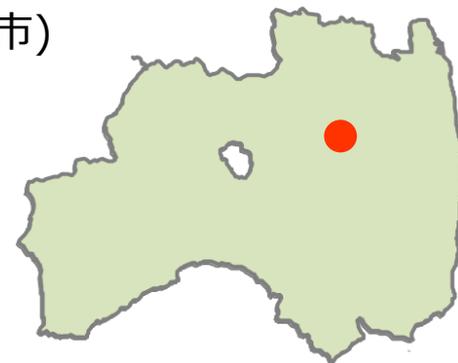


有機農業と営農型太陽光発電の両立

<概要>

- 事業実施主体：一般社団法人二本松有機農業研究会(福島県二本松市)
- 発電設備：営農型太陽光発電
- 発電出力：約63.9kW
- 年間発電量：約78,622kWh
- 発電設備下部の農地：19.98a（大豆、麦を栽培）
- 建設費：1,620万円
- 運転開始時期：2018年8月



発電施設の外観

←

パネル下栽培中の作物

→

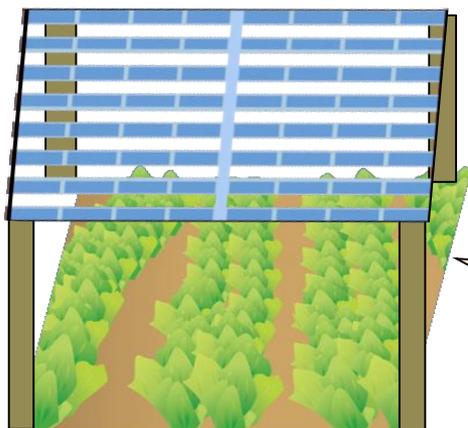


- 二本松有機農業研究会は1978年より環境に負荷の少ない自然に優しい農法に取り組んでおり、2001年に有機JAS認証を取得している。
- 2011年に発生した東日本大震災及び福島第一原発事故をきっかけに、食糧自給だけではなく「自分たちのエネルギーは自分たちで作る」という考え方のもと、再生可能エネルギーを自ら取り組むことを検討し、営農型太陽光発電に取り組むこととなった。
- 発電事業を行うにあたり、同研究会を法人化した。
- もともと有機栽培した農産物を生活協同組合と取引しており、発電施設の建設費には生活協同組合からも出資してもらった。また、発電した電気も株式会社パルシステム電力（生活協同組合の小売電気事業者）に売電している。

株式会社パルシステム電力

二本松有機農業研究会 営農者 = 発電事業者

遮光率 29.4%



農地

営農者本人が所有し、
これまで営農していた
農地を活用

売電収入
約230万円/年
売電単価27円/kWh

栽培農産物の
販売収入

支柱間隔：4.5m×4m
支柱高さ：2.8～3.5m
建設費：1,620万円

- ・各種基金（生活協同組合、NPO法人）
- ・パネルサポーター制度（パネル1枚分を1口としてクラウドファンディングを実施。）
- ・農民発電クッキー（売上げの一部を発電事業に充てる。）
- ・個人

寄付金：4,832,037円

融資

農林中央金庫福島支店



- 電気設備を除き、自ら施工し工事費を極力削減した。
- 近年大豆の高温障害が著しいので、パネル下では、かえって収量・品質の維持に貢献している。
- 発電事業者と営農者が同一なので、売電収入がそのまま営農者の収入につながる。また、営農型太陽光発電に取り組むことにより、自社の農産物の価値、企業価値の向上につながっている。
- 将来的には近隣へ配達する際に使用しているトラックをEVにし、燃料を営農型太陽光発電設備から自家調達する形にしたい。